

地 理 (Geography)		1 年・通年・2 単位・必修 機械・電子制御工学科 担当 大矢 良哲
[ 準学士課程(本科 1 - 5 年) 学習教育目標 ] (1)	[ システム創成工学教育 プログラム学習・教育目標 ]	[ JABEE 基準 ]
<p>[ 講義の目的 ]</p> <p>歴史では時代の流れ、縦に系統的に理解するのに対し、地理では空間的なものの見方を養う。地理の授業は、学生諸君が自分で地球上の課題を追求していくことを通して、地理的なものの考え方ができるように、社会に出て役立つ地理的技能や知識を身につけることを目的としている。</p>		
<p>[ 講義の概要 ]</p> <p>地理の学習でまず身につけたいのは地図の活用である。地図を使いこなすための知識・技能を学び、地形・気候など自然環境、さらに産業について知識を深める。また世界の国々(主にアジア)の人々の生活の現状や課題についても考える。</p>		
<p>[ 履修上の留意点 ]</p> <p>必ずしも教科書通りに講義を進めるわけではないが、教科書をこえた内容で効果的な学習ができるようにする。そのため各自が、常に講義内容の把握・理解に心がけ、積極的に参加する姿勢が大切である。地図帳は毎回持参し、授業でふれた地名などを理解するように努めること。また、地形図・配布資料の実習では色鉛筆(またはボールペン)を使用することがある。</p>		
<p>[ 到達目標 ]</p> <p>地理の基礎を理解し、地理的な思考方法を身につける。</p>		
<p>[ 評価方法 ]</p> <p>以下の3つの項目で成績評価を行う。</p> <p>定期試験 80%...前期中間・前期末・後期中間・学年末の各試験の成績 レポート 10%...課題を提出させ、定期試験と同等に評価する。 受講態度(ノート作成) 10%</p> <p>課題は提出期限や条件を厳守した方が有利に評価される。</p>		
<p>[ 教科書 ]</p> <p>「新詳地理 B」初訂版、帝国書院。 「新詳高等地図」初訂版、帝国書院。</p> <p>[ 補助教材 ]</p> <p>1:25,000 地形図「大和郡山」国土地理院発行。 配布プリント教材。 ビデオ教材。</p> <p>地形図はできるだけ折り曲げないで、最初の講義に持参すること(折り方を学習します)</p>		
<p>[ 関連科目・学習指針 ]</p> <p>本教科は歴史 ・ (2 年・3 年)・政治経済(3 年)等の科目に関連する。</p>		

## 講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	世界観の変遷(世界・日本)	時代と共に変化する様々な世界観とそれらを表現する地図の歴史を理解する。	
第2週	地図の基本	地形図の見方を理解する。	
第3週	地形図の読図1	地図を描き、地理的技能や知識を学習し、身につける。	
第4週	地形図の読図2	同上。	
第5週	地形図の読図3 大和郡山(臨地研究)	同上。学校周辺の野外巡検を行う。	
第6週	内的営力による地形1	世界の大地形、プレートの境界について理解する。	
第7週	内的営力による地形2	造山帯・火山・安定陸塊について。	
第8週	内的営力による地形3	地震 近畿の活断層について。	
第9週	外的営力による地形1	河川がつくる小地形について。	
第10週	外的営力による地形2	海岸・氷河・カルスト地形などについて。	
第11週	気候と気候要素	気温・降水・風・海流などについて理解する。	
第12週	世界の気候区分1	熱帯・乾燥帯について。	
第13週	世界の気候区分2	温帯について。	
第14週	世界の気候区分3	亜寒帯・寒帯・高山気候について。	
第15週	現代の気候	異常気候・都市気候。日本の自然の特徴について。	
第16週	世界の農業、農業地域区分1	産業活動と自然、農業の基本的分類を理解する。	
第17週	農業地域区分2	世界の農業地域を分類し、諸条件との関わりを考察する。	
第18週	現代世界の農業の現状と課題	農業の国際化の現状と課題について理解する。	
第19週	世界のなかの日本の農業と水産業	日本の農業および水産業の特色を世界との比較を通じて理解する。	
第20週	エネルギー・鉱産資源の現状と課題	エネルギー利用の変化、鉱産資源の特徴と分布の特色を理解する。	
第21週	日本の資源問題	日本の資源問題に対する取り組みを理解し、これから日本の進むべき方向性を考える。	
第22週	工業の発達と立地	工業の特徴、種類を理解し、工業立地について考える。	
第23週	世界の工業地域	世界の工業地域の特徴について。	
第24週	現代世界の工業の現状と課題	工業のグローバル化を世界の動きの中で考察する。	
第25週	世界のなかの日本の工業	日本の工業の発達、海外進出と産業の空洞化、新たな取り組みについて。	
第26週	世界の諸地域 韓国	隣国の韓国について理解を深める。	
第27週	世界の諸地域 北朝鮮	朝鮮民主主義人民共和国について。	
第28週	世界の諸地域 中国	中国について。	
第29週	現代世界の国家と国家群	国家とは何か、領土と国境、国家間の結びつきなどを考える。	
第30週	まとめ		

\* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.  
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)